

昔々ひとりの男がいて、子供がひとりいた。その子はモアナマリウムという名前だった。モアナマリウムは勉強することを希望し、父親は彼女に教える方法はないものの、彼女が勉強することは望んだ。しかし、モアナマリウムは家から遠く離れたところで学ぶことを望んだ。この時代、ウングジャはコモロ人からはガルグベと呼ばれていたが、今ではタンザニと呼ばれている。そこが、彼女が勉強に行きたいところだった。父親は本当に娘が勉強に行くことを望んでいたので、彼は雌山羊を売った。しかし、雌山羊を売った後に父親は村から追放されてしまった。

「お前は持っているたった一頭の雌山羊を売ってしまったので追放されるのだ」。

すると彼は言った。

「私が雌山羊を売ったのは娘を勉強にやらせるためだ。娘を勉強にやらせる方が、人々に[アンダで]食べさせるために米を調理するよりもずっと大事なことからだ」。

これは、彼がアンダを放棄したということだが、当時のコモロでは、子供を教育するよりも人々にご馳走することが優先されていた。今ではそんなことはない。今では、アンダ(大結婚式)を行うよりも、子供の教育をしっかり行わなければいけない。何故なら、子供に教育の機会を与えることで、あなたはひとつの家族を得ることが出来るからだ。